



平成 27 年度厚木秦野道路建設事業に伴う伊勢原Ⅰ工区(石倉中・和田内(第3地点))発掘調査

かみかすや いしくらなかいせき 上粕屋・石倉中遺跡

第2地点(伊勢原市No.40)

きんせいど きしょうせいがま 近世土器焼成窯の発見

かみかすや いしくらなかいせき
上粕屋・石倉中遺跡の発掘調査

伊勢原市上粕屋に所在する石倉中遺跡では、厚木秦野道路建設に伴う発掘調査を実施し、江戸時代から縄文時代・旧石器時代に至る各時代の遺構・遺物が発見されています。

平成 27 年度の調査では、土器を焼いたと見られる江戸時代の窯跡(土器焼成窯)が発見されました。近代にはいつてからの土器焼成窯は東京都でいくつか知られ調査が行われていますが、江戸時代のものとしては、神奈川県はもちろん関東地方ではじめての事例となります。



土器焼成窯



土器焼成窯断面

土器焼成窯の構造(写真上)

発見された土器焼成窯は残念ながら近年のゴミ穴によってこわされ、その半分が失われていました。

写真の赤くみえるところが窯の壁です。窯は円筒形で、窯の底にロストル(通風のための畦のようなもの)が設けられています。ロストル下の地面が強く焼けていることから、写真手前側に焚口があったものと思われます。円筒形の窯本体に焚口部分がとりついたタバコのパイプのような形状(キセル窯)と想定されます。※下写真参照



今戸焼の窯(かつしかデジタルミュージアムより)

土取り穴と水車小屋

上粕屋・石倉中遺跡ではこれまでの調査でローム層を掘り取ったとみられる土取り穴や、水車小屋が発見されています。また調査区のすぐわきには江戸時代からある千石堰用水(せんごくせきようすい)が流れています。

土取り穴で土器の材料となるロームを掘り取り、水車小屋の唐臼(からうす)で土を砕き、用水の水で水簸(すいひ)するという一連の工程が想定できます。



土取り穴



水車小屋



土器焼成窯

土取り穴
材料の採取

水車小屋
土を砕く

水簸する

成形

土器窯
焼成

まとめと課題

発見された土器焼成窯で何が焼かれたのは、今のところわかっていません。しかし窯としてしっかり作られ、また水車小屋なども含めた遺構が一連の施設であるとするれば、相当量のものが生産されていたと見なければなりません。

一般に、土器焼成窯で焼かれるものには「かわらけ」、調理具の「ほうろく」、照明具の「ひょうそく」、暖房具の「火鉢」、玩具「土人形」などがあります。どれも安価なもので、大量に作って売らない限り元手を回収することが難しいものです。一方で暖房具や玩具などは都市生活に係るもので、江戸時代の農村の生活とは縁の薄いものといえます。つまり土器焼成窯で焼かれる焼物は安価で、しかもこの遺跡が所在する農村部ではいくらかも売れないはずのものです。

それにもかかわらず、こうした窯が作られた背景には、信仰の山である大山の山麓という遺跡の立地や、かつて隣接地にあった山口家のような富農の存在があったことが考えられます。

今後は発見された土器焼成窯が、この地域の歴史とどのように係ってきたのかについて明らかにしていきたいと思ひます。

平成 27 年度厚木秦野道路建設事業に伴う発掘調査
上粕屋・石倉中遺跡(伊勢原市No.40 遺跡)

2016 年 2 月

主催 公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜南区中村町 3-191-1

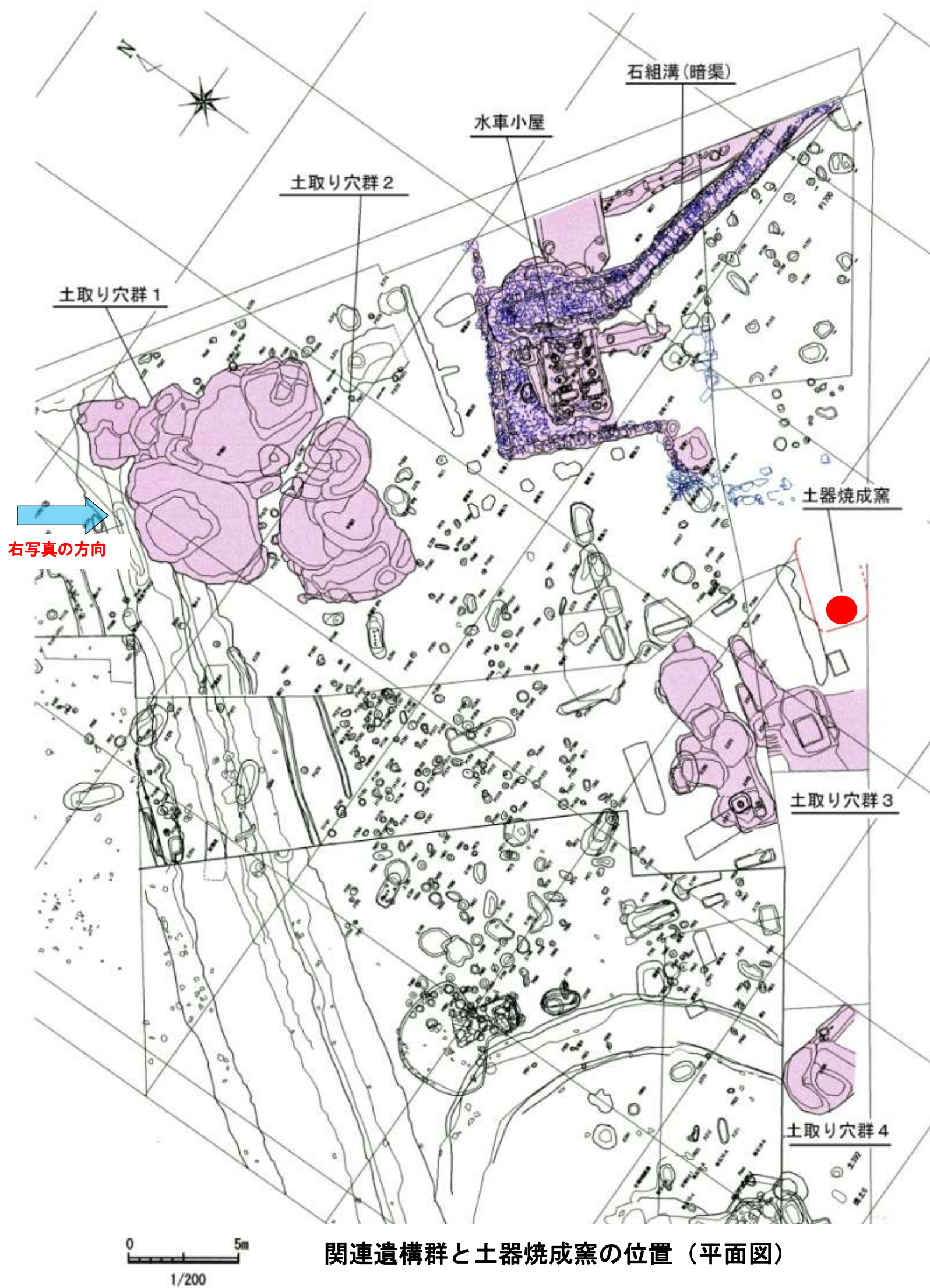
TEL 045-252-8689

<http://www.kaf.or.jp/>

共催 伊勢原市教育委員会

地域の特色ある
埋蔵文化財活用事業





関連遺構群と土器焼成窯の位置 (平面図)



関連遺構群と土器焼成窯の位置 (写真)